

ねりまユニオン

編集発行：練馬ユニオン編集委員会
連絡先：練馬区 練馬1-16-16-101
サポートねりま内
TEL 03-3994-2088
E-mail：support@nerimaunion.org
HP：www.nerimaunion.or/

トラック運転手の 長時間労働改善を計ろう！

本年2月零細企業で働くトラック運転手からの労働相談を受けました。おりしも、バスやタクシー・トラックなど運輸業界で働く運転手の過労防止策が後退の危機に瀕しているとの新聞報道と重なる時期です。

Aさんは15年前、口頭契約で入社し、冠婚葬祭以外は有給休暇も取得せず皆勤でまじめに働いてきました。トラック業界の長時間労働、低賃金構造の実情は想像以上です。まず勤務状況は週5日勤務（土、日、祝日休日）、毎朝2時、3時に自宅からマイカーで会社・駐車場待機所まで出勤、3時、4時には12tトラックで出庫し首都圏各地への配送業務となります。

毎日の走行距離は一般道を200km～300kmが普通で、時には400kmを超えることもあります。昼食休憩などまともにとれません。駐車場待機所帰着は夕方4時～5時頃です。会社就業規則は「労働時間は1日8時間以内、1週40時間以内とする。始業時刻：6時00分、終業時刻：17時、休憩時間：朝1時間・昼1時間・午後1時間」とうたっています。待遇面では15年間、昇給・昇格無し、夏・冬一時金、退職金なし。駐車場待機所は、電気設備・電話・机・椅子・トイレもない単なる物置コンテナがあるだけの劣悪な環境です。

Aさんは昨年4月交通事故を起こし、約1カ月間の自宅待機命令、トラック破損代などの損害賠償支払いが発生していました。当初は、このこともあり会社都合退職を求めた労働相談でした。ですが組合としては杜撰な勤怠管理、数々の労働基

準法違反・就業規則違反を放置するわけにはいきません。

4月から始まった団体交渉は、会社代理人弁護士と対峙することになりました。組合要求は、①2年分の未払い賃金（残業代）、②自宅待機中の未払い賃金、③交通事故の損害賠償として控除した賃金の返還、④有給休暇・慶弔休暇の完全取得、⑤福利厚生・作業環境の改善などの項目です。

団体交渉を重ねる中で争点化したのは、残業代算出にあたり拘束時間内の休憩時間合計に労使間で大きな差異があることでした。いわゆる現場での手待ち時間・手すき時間、駐車時間が休憩時間にあたるかどうかの見解の違いです。それでも150万円以上の残業代未払いが発生することは明らかです。そこで会社代理人は交通事故はAさんの業務上過失責任だとして約300万円の損害賠償債務があるとの主張を譲りません。

団体交渉での主張は対立のまま推移しながら、労使双方和解の方向を確認しました。コロナ禍の景気後退の余波で、会社の経営環境悪化も現実化していることもあり早期解決を求めました。8月に入り金銭和解が成立、ようやく争議終結となりました。

和解内容は、金額的には不満は残りますが、退職日までの有給取得（40日）ができたこと。会社社長から時間外労働の未払い賃金があったこと、長年にわたる社会保険未加入であったことなど労働条件等に不備があったことに対し謝罪を勝ち取ったことは大きな成果であつたといえます。

「原水禁77ヒロシマ大会

親子スタディツアー」に参加して

原爆の報道は従来多々見聞きしてきましたが、今回原爆資料館の展示には塗炭の思いを新たにしました。特に壮絶な火傷の写真などはむごいことこの上ありません。被爆者の人たちが一体どれほどの苦痛に苛まれ続けたのかと思うと、本当に生きた心地がしません。一瞬にして蒸発したほうが楽だったのではないかと思ってしまうほどです。こんな残酷な苦しみをもたらすのが戦争なのです。指から垂れ下がった皮膚、飛び出した眼球、累々と重なる火腫れた屍、それを踏みつけてでも逃げなければならなかった人々、生涯続く後遺症……。各国の要人たち（取り分け核を脅しにしている独裁者）は、被爆者たちの阿鼻叫喚を、果たしてどれほど目の当たりにし、核兵器の凄惨さを実感しているでしょうか。

毒ガス島の資料館の写真なども悲惨でした。被害を受けた作業員に対して、治せるものは兵器にならないから治療法はないと言い放ったということや、国民の食料のために金を使わないのに、人を殺すために金を注ぎ込んだと強調された話は、誠に胸に痛いものです。戦争は人間を全く無神経で非人道的にしまいます。今は観光地となっている島の地面の下には、未だに毒が埋まっているといえます。毒ガス島だけでなく、埋ずもれて見えなくなった罪科の上に、現代の私たちは生きているということを忘れてはならないでしょう。

歴史上争いは絶えませんが、人間は愚かなのではなく、愚かになる可能性を持ってい



出所：原水禁広島より

るのだと思います。人間は、愚かさを克服していく可能性も持っています。本来、互いに協力して生き延びる進化の道を選んだのが、生物としての人類です。けれども富や権力が集中してからは、戦争を起こすのは常に権力者であり、悲惨な目に遭うのは常に弱い国民です。一握りの権力者でなく、大多数の人は穏やかに平和に生きていくことを願っています。

被爆者の高齢化に伴って、「被爆者のいない時代」が迫っていると言われる現在、戦争の惨禍を忘れずに発信していく必要があるでしょう。多くの人が「知る」ことが、社会の大きな力になります。そして、将来次の被爆者を生まない新たな「被爆者のいない時代」を、永遠に継続させていかなければなりません。真実を明らかにして、それを「語り継いでいくこと」。それが何よりも大切なだろうと、このツアーに参加して思っています。

子どもや孫たちに、戦争も核もない、美しい地球を！

世界初の被爆地ヒロシマから世界に向けて、核のない未来を訴えます。非核社会の実現は「平和都市・広島」に住む私たちの課題ともいえるでしょう。

稲本雅之

練馬地域ユニオン第27回定期大会のご案内

練馬全労協・練馬地域ユニオン
執行委員長 奥山信義

猛暑が過ぎ秋冷の季節になりました。皆様におかれましてはお変わりなく活躍のことと思います。

さて、練馬地域ユニオンの定期大会を、下記の通り開催することとなりました。練馬地域ユニオンは結成から26年を経過し、皆様の積極的なご参加とご協力をいただきながら、ここまで活動を続けることが出来ました。改めてお礼を申し上げます。

労働環境はコロナ禍が治まらない中、経済活動優先の規制緩和に向かっていきます。労働者の「健康と命」が危惧されまます。労働者は正規・非正規かわりなくコロナに感染し仕事が出来なくなり、職場を失い生活に困窮する労働者が増えていまいす。労働運動を強化し政府に「生活保障」、「最低賃金一律1500円」を企業には「賃上げ」の声をあげなければなりません。

練馬地域ユニオンは地域における未組織労働者の『拠り所』として、力量を高め、「非正規」の課題に取り組む《ユニオン運動》を創造しなければなりません。

コロナ禍のなか体調を考慮しご無理なくご参加くださるようお願い申し上げます。

なお、欠席される方は、下記委任状を10月22日までに郵送またはEメールで送信していただくか、委任する旨を役員まで電話でご連絡ください。

書記長：鈴木安友 Eメール、携帯、住所は以下です。

Eメール：

su0413@ac.wakwak.com

連絡番号：090-2245-8390

FAX：03-3923-6244

住所：178-0064 練馬区南大泉

4-50-3-903

☆大会日時&会場

◇日時：2022年10月29日（土）

午後6時15分より（午後6時開場）

◇会場：練馬区立勤労福祉会館
2階大会議室

（西武池袋線

大泉学園駅南口徒歩5分）



暑い運動のすすめ

引き続き熱中症対策を！

夏から秋へと季節が変わり、朝晩は気温が下がってくるこの時期ですが、日中は夏日と変わらず猛暑が続きます。そうした中で引き続き気を付けなければいけないのが、暑い季節に頻発する熱中症です。今回は熱中症の症状からその対応についてまとめていきます。

熱中症とは高温多湿の環境下で発生する障害とされ、発汗により体内の水分や塩分のバランスが崩れることで体温調節機能が低下し、熱が身体にこもる事でめまいや頭痛、意識障害などの症状を引き起こしてしまいます。

風通しの悪い環境や疲労、寝不足により体調が優れていない場合にも発症リスクは高まるとされていますが、秋に発症する原因としては夏に比べて水分補給がおろそかになり、1日を通して気温差や気候の変化に身体が慣れていけなくなるケースが多くあります。

また日中は猛暑となる事が多いため、そのような状況下でのマスク着用は呼吸による体温調節が通常に比べて妨げられてしまい、発症リスクはより高まってしまいます。

熱中症の対策では、こまめな水分補給に加えて熱がこもらないような服装を身に着ける等がありますが、適度にマスクの取り外しを行う事や強い日差し、熱がこもりやすい場所を避ける工夫も大切になります。

季節の変わり目には感染症により体調不良も起こりやすく、下痢や嘔吐による脱水が熱中症へと繋がる危険性もあるため注意が必要です。

夏には「夏バテ」があるように、秋には「秋バテ」があり、寒暖差が激しく自律神経の乱れから疲労感や頭痛、めまいなど様々な症状が出やすい季節でもあります。

現在も新型コロナウイルスの感染者数が増加傾向にあるためマスクの着用が日常化していますが、引き続き熱中症対策を心掛け、日々の体調管理に努めていきましょう。

特定非営利活動法人 ヘルスプランニング

